みんなのスポーツスペシャル

兄貴バディ 成長の銀メダル！

勝負強さみせ進化

今大会は伏兵扱いに甘んじていた上位常連の名門、バディSC。同門対決となった決勝は終盤の1ゴールに泣いたが、藤田監督は「これまで練習試合でも一度も勝てなかった相手。成長の兆しは十分、あります」。

バディ江東、横河武蔵野FC Jr.（武蔵野）ら優勝候補が顔をそろえたグループで戦った予選2次リーグの最終戦には、試合終了寸前のゴールで横河武蔵野に追いつき決勝トーナメント進出を勝ち取るなど、課題だった「勝負どころでの試合運び」に進化を感じさせた。決勝もキーパーの堀川史羽君をはじめ、野戸悠輝君らDF陣が江東の猛攻をよく防ぎ、「攻撃へのパスがうまくつながるとうれしい」という村上俠太朗君も高精度な前線へのフィードと力強いFKで好機を演出。キャプテンの野戸君は「みんな球際に強くなってきた」と手応えを感じていた。

攻撃の核となった俊足ドリブラー・岡田泰輝君も「チームは少しずつ強くなっていると思う」とうなずく。「今日の結果を『悔しい』で終わらせず、来年につなげないと」と藤田監督。接戦を重ねて手にしたメダルが、彼らの成長スピードをぐっと加速させるはずだ。

準優勝のバディSC

◆JA東京カップ5年生大会

JA東京カップ第28回東京都5年生サッカー大会（都サッカー協会・同少年サッカー連盟主催、東京中日スポーツ・東京新聞共催）が8～10日、府中市の朝日サッカー場で行われた。兄弟チーム対決となった決勝はバディSC江東（江東）がバディSC（世田谷）を下し初優勝した。FC多摩Jr.（多摩）が3位決定戦で連覇を狙うJACPA東京FC（小平）を退け入賞した。（鈴木秀樹、石井智昭）

【大会優秀選手】 土佐昂清、須永琉成、岡田ナミト、高橋宗杜、雨森光輝（バディSC江東）岡田泰輝、野戸悠輝、大塚康生、村上俠太朗（バディSC）吉儀大、山下悠斗（FC多摩Jr.）原田悠史、松本琉聖（JACPA東京FC）三木理也、新井悠河（サウスユーベFC）保坂翔馬（三菱養和SC調布Jr.）天田海人、村松晴登（Grant FC）渡辺恭平、小林拓真（町田JFC）

バディ江東 兄弟対決制し初V

雨森君が殊勲弾

初の兄弟チーム対決となった決勝。第1ピリオドから攻守が入れ替わる激しいせめぎ合いが続くなか、第3ピリオド5分、弟分のバディ江東がワンチャンスを見逃さなかった。

▽決勝
バディS江東 1（0－0、0－0、1－0）0 バディSC
【得点者】雨森光輝（江）

「とにかく落ち着いて打とうと思いました。イメージどおり決めることができました」と雨森光輝君。ゴール右からシュートコースが空いた一瞬を突き左サイドに突き刺した。守備では、センターバックの須永琉成キャプテンを中心に、キーパー・土佐昂清君らが素早い対応で得点を許さず、悲願の頂点に立った。

最高の舞台で東京ナンバーワンを目指す夢にまで見た対戦だったが、最もやりづらい相手でもあった。バディSCの藤田洋一監督はこの春まで江東の指揮官として選手たちを指導、これまで育てきた選手たちの長所、短所も知り尽くしていたのだ。

「本当にあのチャンスだけでした。難しい戦いでしたが、最後までよく戦ってくれました」と山

初優勝したバディSC江東＝東京都府中市の朝日サッカー場で（鈴木秀樹撮影）

AZ 鈴木君堂々の宣誓

大会初日の正午すぎから行われた開会式では降雨のなか、ブロック予選を勝ち抜いた48チームが参加。AZ，86東京青梅Jr.の鈴木翔和キャプテン＝写真＝が「素晴らしい大会でサッカーができる喜びを今まで支えてくれたすべての方々に感謝し、仲間を信じ、一戦一戦全力でプレーすることを誓います」と堂々とした宣誓を披露し会場からは大きな拍手が送られた。

前年王者はベスト4

JACPA

前年王者のJACPA東京FCは3位決定戦でFC多摩Jr.を追いかける展開に。第3ピリオドに河角昇磨君のシュートから、松本琉聖君がこぼれ球を押し込んで一矢報いたものの及ばず、4位で大会を終えた。

野口光彦監督は「個々のスキルや身体能力は昨年のチームに引けをとりません。現状はそれに頼りすぎて、連係がおろそかになりがちなのが課題」としつつ、「ただ、その分、伸びしろは大きいと思いますよ」。今村海音キャプテンは「3日目はチームがひとつになれた気がします。もっと練習して、先輩を超えるよう頑張ります」と力を込めた。

ベスト4のJACPA東京FC

本武志監督。手に汗握る激闘から開放された指揮官から笑みがこぼれた。

ブロック予選が始まると〝東京一〟を目標に掲げ選手たちは練習に励んだ。第1ピリオド、2ピリオドを総入れ替えする特別ルールの都大会に備え、前後半で争われる通常の試合でも選手たちは全員交代し選手同士のコミュニケーションアップに力を入れた。

優秀選手にも選出された須永キャプテンは「チームのみんなが負けたくない強い気持ちを持って戦うことができました。最高の大会でうまく守ることができました」。仲間たちと手にした優勝に最高の笑みを浮かべていた。

【試合形式】 1ピリオド12分の3ピリオド制を採用。第1、2ピリオドは選手を総入れ替えし、第3ピリオドは選手の起用、交代が自由にできる。初日は都内16のブロック代表48チームによる予選トーナメントが行われ、2日目には同トーナメントを勝ち上がった16チームが4グループに分かれ予選2次リーグを戦う。各グループの上位2チーム、計8チームが最終日の決勝トーナメントに進出し、順位を決定する。

多摩Jr. 大躍進の3位

繰り上げで出場権をつかんだFC多摩Jr.が快進撃を続け3位入賞。連覇を狙う昨年の覇者・JACPA東京FCを第1ピリオドから圧倒した。

第1代表の東京ヴェルディJr.（稲城）の選手が大会前に負傷したため、最低登録人数の16人に満たせず出場を断念、そこで繰り上がったのが多摩Jr.で、選手の大半は頭を丸め気合を入れて臨んだ。

第1ピリオド10分、左サイドからのフリーキックを逆サイドに詰めていた山倉渉君が決め先制すると、第2ピリオド9分には、バルア・ロイ君がゴール正面から決めた。第3ピリオド2分には、李京樹君が決めて3得点。同4分には、JACPAに1点を許したが、その後は王者を封じ込め入賞した。

先制ゴールの山倉君は「やっぱり相手はプレッシャーが速いし、強かった」と高レベルの対戦を振り返った。2点目を決めたロイ君は「このゴールで行けると思いました」と手応え十分のゴールにニッコリ。試合を決定づけるゴールに李君は「なかなか思いどおりに決めることができなかったので、スカッとしました」と声を弾ませた。山下悠斗キャプテンは「ひとりひとりが高い技術も出すことができました。あと、運も持ってたかなぁ～」と輝くメダルを胸に笑顔で会場を後にした。

昨年の王者を下し3位入賞したFC多摩Jr.

お問い合わせ 03・6910・2337